

企業の成長発展をサポートする
日本経営者同友会



日本経営者新聞

発行所 (C)日本経営者新聞社

東京都千代田区神田錦町3-2

No.32 (通巻329号)

年間購読料 8400 円

No.32(通巻第329号)

JAPAN PRESIDENTS JOURNAL

編集局 ☎03-5280-6222

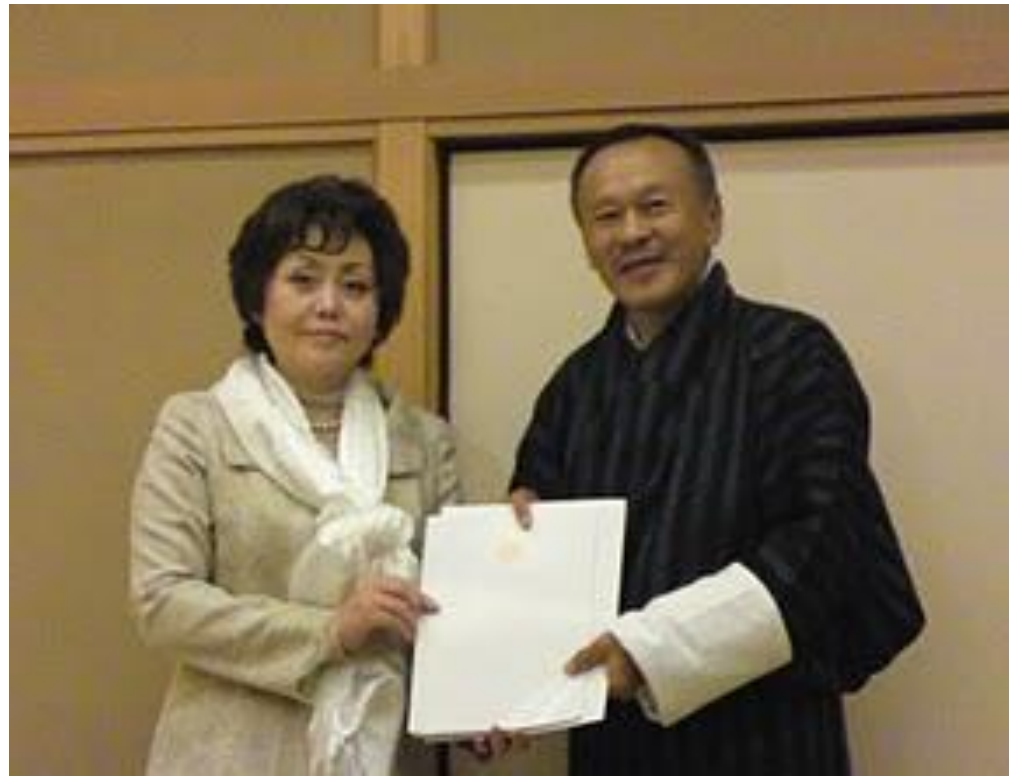
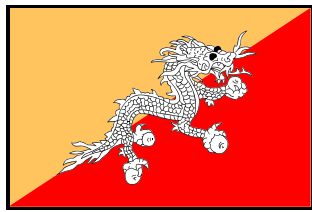
徳田代表理事

ブータン王国名誉総領事に就任

当会徳田代表理事は本年4月1日付けでブータン王国名誉総領事に就任いたしました。さる4月16日、日本経営者同友会主催によるブータン首相歓迎夕食会の席上、ジグミ・ティンレイ首相より正式任命書が徳田代表理事に手渡されました。

ブータン政府はかねてより日本における名誉総領事として適格な人物を探しており、これまで長きに亘ってブータンと信頼関係を築いてきた日本経営者同友会がその要請に応え、徳田代表理事の就任が実現しました。席上、徳田代表は「勤勉と思いやりなど、わが国にあった古き良き伝統が損なわれつつある今日、ブータンの国民性のある素晴らしい精神を学ぶ必要がある」と述べました。

また、名誉領事として、株式会社新日本科学・永田良一社長が就任、ティンレイ首相から任命書を手渡されました。永田社長はブータンの獣医学留学学生2人の面倒を見ていらつしやいます。徳田代表理事は国連友好協会の代表理事として、NPOやボランティア団体の貴重な活動を国連につながる活動もしています。特に国連友好協会が現在力を入れて取り組んでいる車輪のリユース運動は、アフリカの発展途上国の車輪及び車輻修理技術者養成のニーズに大きく応え得る活動です。この運動はCO2削減にも大きく寄与します。今後はブータン名誉総領事としての新たな任務も加わり、徳田代表理事には様々な方向、角度から同友会会員企業様、そして国連の支援を必要とする国で生きる人々への貢献が期待されます。



ティンレイ首相(右)より名誉総領事の任命書を手渡される徳田代表



北マリアナ連邦は、太平洋西部ミクロネシアにあるアメリカ自治領。首都はサイパン島のススペ。人口約8万人、面積471平方キロ、十数の島で構成。公用語は英語。先住民(チャモロなど)を中心に、フィリピン人や中国人などで構成される。自治政府は公選による知事(任期4年)が統括する。議会は上、下2院制。第一次世界大戦後は日本の委任統治領、太平洋戦争では激戦地となり、戦後は米信託治領となった。



笑顔で握手を交わす下地会長(左)とフィティアル知事

下地会長 サイパン知事と会談

今年2月、下地会長及び一行は10日余りに亘り、普天間基地移設問題について、北マリアナ連邦のベニグノ・フィティアル知事率いるサイパン政府関係者らと会談した。

フィティアル知事は、米軍普天間飛行場だけでなく、移転先として北マリアナ諸島への移設について日本政府から打診があれば「歓迎する」と述べ、受け入れに前向きな姿勢を示した。「外交、防衛問題は、米連邦政府と協議する必要がある」と日米両政府での交渉が基本と示した上で、「サイパン、テニアンにとって利益になる事であれば、普天間飛行場だけでなく、訓練施設の一部だけの移転受け入れも検討する」とも述べた。10日には日本の議員団も入れて知事と会談した。



徳田代表(中)とフィティアル知事(右)



サイパン空港VIPルームにて会談

普天間基地移設の可能性打診

普天間飛行場は、沖縄県宜野湾市にあるアメリカ海兵隊の飛行場で、普天間基地(MCAS Futenma)と呼ばれている。2700mの滑走路を持ち、嘉手納基地と並んで沖縄におけるアメリカ軍の拠点となっている。下地議員は、会談で「沖縄に基地負担が集中しすぎている。受け入れ国の負担にならないようにできることからやりたい」と述べた。普天間飛行場の機能の一部の移転先としてサイパンとテニアンを活用出来ないかと提案した。同知事と会談した3議員は、政府・与党の3党をつくる沖縄基地問題検討委員会のメンバーで、同委員会として11日のグアム視察に先立ち、独自調査としてサイパンを訪れた。その後一行は、グアムを訪問している松野智久官房副長官と合流して、11日に現地の米軍施設などを視察した。JEPAと北マリアナ連邦との長きに亘る親密な友好関係は今、更なる結束を生もうとしている。様々な候補地が挙がる中、日本政府が出した結論が日米関係として日本国内に与える影響が注目される。



サイパン・テニアン間を飛ぶ飛行機



美しいガラパンのマイクロビーチ



新時代を切り拓き、企業の発展に貢献する経済団体です。

NY国連本部から
アフリカ担当高官来日

3月3日都内にてニューヨーク国連本部アフリカ局でご活躍中のP・ヘイフォード様、池亀美枝子様をお迎えして夕食会が開催された。当日は駐日ガーナ大使館、マリ大使館からもご参加をいただきJEPA会員企業様と共に、国連がアフリカで展開する様々なプロジェクトについてお二人から話を伺った。良くも悪くもアフリカは常にあらゆる問題の焦点のひとつであり、お二人の話は実に興味深いものであった。

昨年JEPAと国連友好協会はアフリカのガーナとマリにミッションを派遣、両国政府のトップの方々とお会いでき、また多数の民間のビジネス現場も訪問していずれも今後のビジネス展開に有益であったということもあり、ヘイフォード氏と池亀氏の実地的な見解とアドバイスは非常に貴重なものといえる。この日の夕食会のごく少人数の集まりであったので夕食会は親しみに満ち、かつ有益な会となった。



ティンレイ首相(前列中央)を囲んで

ブータン側からはティンレイ首相をはじめナムゲル大使、ブータンの主要企業であるグローバル・ブータン・リーダーシップ・エンタープライズ社社長や官邸上級事務官の方々が出席した。JEPA側の招待客として、国民新党・下地幹郎議員や社民党の阿部知子議員、ブータン友好議連幹部の自民党・河井克行議員の他に、ペマ・ギャルポ横浜桐蔭大学教授(ブータン王国首相顧問)、日比野勝彦東京芸大教授(ブータン親善大使)らのご出席なさり、懇親の夕べ繰り広げられた。

4月16日、来日中のブータン王国ジグメ・ティンレイ首相を迎えてJEPA主催による歓迎夕食会が都内で開催された。

JEPA主宰
ブータン首相歓迎会



ヘイフォード様(前列左)と池亀様(前列中央)を囲んで

日本記者クラブで
会見するティンレイ首相

この場で名誉総領事、
他2名の名誉領事の決定が
発表された。

ブータンは71年に国際連合に加盟、非同盟中立政策を外交の基本方針としつつ、近隣諸国との関係強化を図っている。

ブータンおよびインドの政財界とJEPAの交流は長きに亘っており、このたびの徳田代表理事のブータン名誉総領事就任となった。



ブータンの国獣ターキン

慶 朴東宣会長の誕生パーティー 祝

3月都内のホテルで、韓国パルク会長の誕生パーティーが開催された。当日は、韓国、中国、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、ラオス、カンボジア、中国、韓国。



席上ご挨拶をなさるパーク会長



香港東亜銀行からの担当者のお二人と共に

香港東亜銀行
プライベート・バンキング

3月香港東亜銀行プライベート・バンキング担当者から、JEPA役員と会談した。昨年からは今年にかけて同銀行とJEPAは数回に亘り顧客向け商品について意見交換を行っている。プライベート・バンキングとは、まとまった自己資本をお持ちの顧客とそのご家族を数世代に亘ってお世話するハイレベルな資産運用法である。

パルク会長は68年韓国国会議員として初のスペイン名誉総領事に就任。以来様々な公的要職を歴任、経済界において韓国および世界各国のトップ企業の経営にまつ関しては過去10年余にわたり韓国スケルトン連盟会長を務め、今日の韓国スケルトン競争の礎を築かれました。先ごろのキム・ヨナ選手のパルク・オープン選手の活躍は皆ご存知のとおりです。

氏は現在ロンドン、韓国に複数の拠点を持ち幅広くビジネスを展開されています。また、先号でもご紹介しました芸術の祭典国際評議会大使としても活躍なさっています。

東亜銀行における国際的な営業ネットワークは香港のみならず、中国の中華区に84拠点を擁し、アメリカ、カナダ、イギリス、東南アジアでは240以上の拠点に及ぶ。米国の研究機関とウオールストリートジャーナルによる世界の経済自由度調査で香港は16年間1位の座をキープしている。



思い出の一枚
This is it!

写真は下地会長が今は亡きスーパーstar、マイケル・ジャクソン氏に招かれてネバーランドを訪れた際の貴重な写真。

活動内容

- ネットワーク・サービス
アセアン各国諸機関とのネットワーク
国際交流に関する支援活動
- ビジネス・サポート
企画・開発業務等に関するサポート
海外進出・合併企業等に関するサポート
- 教育・研修・研究活動
国際会議・シンポジウムの開催
海外視察団派遣
- 出版活動
アセアン時事ニュースの発行
政治・経済・文化資料の提供

『本会は、日本とASEAN諸国との相互の文化的理解を基盤として、経済的社会的発展と国民相互の友好協力に貢献することを目的とする』

ASEAN協会

本部：東京都千代田区神田錦町3
-2
電話(03)5280-6123

アセアン加盟国

インドネシア
フィリピン
タイ
ベトナム
ミャンマー
日本
韓国

マレーシア
シンガポール
ブルネイ
ラオス
カンボジア
中国



新時代を切り拓き、企業の発展に貢献する経済団体です。



ガーナ国旗

JEPA・国連友好協会

アフリカ訪問



ガーナ国旗



マリのアマドゥ・トゥーレ大統領と徳田代表

09年12月JEPA・国連友好協会日本代表部及びJEPA会員企業様からなる経済ミッションはガーナとマリを訪問、どちらの国でも政府首脳との会談が行われるなど熱烈な歓迎を受けた。12日間にわたるアフリカ訪問第一日目、ガーナの首都アクラで開催されたワーキング・セミナーには経済省要人をはじめガーナ政府が力を入れる経済特区役員、ガーナ・ジャパン間のビジネスに関心を持つ多くの人が参加をして大盛況となった。翌日から一行は精力的に自動車産業、農業、繊維工業等の現場を訪れ、現地でそれぞれの産業の代表と個別にミーティングの機会を持った。マリでは4日間にわたり金山・鉱山、自動車修理工場、綿花工場などを視察、それぞれの現地担当者と会談した。



マリの総理大臣(左)と会談する一行



ガーナのアフリカン・フォーラム主催者ベネット博士(左)と共に。ベネット博士はDiaspora African Forum (アフリカのNGO経済団体)を率いる。



マリの農林大臣(右)と握手する道川会長



アイザック・ヘイズ学校を経営するプリンセス・オキャンシー(左)と徳田代表



マリの農林大臣(右)と握手するJEPA沖縄野口代表



マリでマリ経済を担う企業経営者たちとの会議を開催



マリでは国営TVのインタビューを受けTV放送された。



3日目にはガーナのアダ地区にあるアイザック・ヘイズ学校を訪問し、子供たちの大歓迎を受けた。大半の生徒が孤児であり、その半数がエイズを罹患している。米国の有名スター、スチーブン・セガール氏もこの学校の支援者の一人。

急がれる有能な人材の育成

アフリカの義務教育はまだ徹底しているとは言えない。人材不足はアフリカ各国の深刻な問題だ。人材育成は急務といえる。JEPAはガーナ、マリ両国から有能な人材の育成のための協力を依頼されている。



加工された綿花



遠方から車で8時間かけて来られたガーナの地方のリーダー

膨大な資源が眠る大地

アフリカは紛争、飢饉、貧困、高いエイズ感染率など、ネガティブな事実もあるが、今のアフリカの高い経済成長率は、アフリカの人々が焦がれる希望の実現を約束している。アフリカの大地には金をはじめ膨大な鉱物・原油・天然ガスが眠る。ダイヤモンド、プラチナ、コバルトの産出量もすさまじい。世界各国は今、アフリカ諸国への投資を拡大するのに懸命だ。なかでも中国は早くから様々な形でアフリカ諸国との結びつきを強化している。



空から見るマリの金山



マリの金山を視察する訪問団メンバー

下の4枚の写真は両国の風景



マリの綿花工場(左右)



マリの車修理工場

